

門部王、難波に在りて漁父の燭光を見て作  
る歌一首

三二六番

見渡せば 明石の浦に 燭す火の ほにそ出でぬ  
る 妹に恋ふらく

或娘子等、包める乾し鮑を贈りて、戯れて

通観僧の祝願を請ふ時に、通観の作る歌一

首

三二七番

わたつみの 沖に持ち行きて 放つとも うれむ  
そこれの よみがへりなむ